

きたざわ潤子さんを 応援します

三浦まり

上智大学教授



生活者ネットワークは長年にわたって地域に根ざした市民参加を実践してきました。わたしたちの社会の多様な声を議会に届けるには、地域に基盤のある信頼のおける人を送り出す必要があります。大田区が、すべての人の人権を尊重し、一人ひとりに寄り添うようになるために、生活者ネットワークの候補者を応援します。

森田明美

東洋大学教授／子どもの権利条約東京市民フォーラム事務局長

山口二郎

法政大学教授

南部義典

シンクタンク「国民投票広報機構」代表

中川李枝子

児童文学作家

堀 利和

視覚障害者元参議院議員

上遠恵子

エッセイスト／レイチェル・カーソン日本協会会長



上田晶美

株式会社ハナマルキャリア総合研究所代表取締役



平井智子

NPO ファミリーカウンセリングサービス認定カウンセラー・認定スーパーバイザー

藤崎義宣

こひつじ幼稚園園長

手塚映子

額町幼稚園園長

土谷雅美

生活クラブ生協東京理事長

山内れい子

東京・生活者ネットワーク都議会議員

内田秀子

元区議会議員

石塚初美

元区議会議員

きたざわ潤子プロフィール

■ 1961年高知県香美市土佐山田町に生まれ、3歳まで暮らす ■ 65年宮崎県へ転居 ■ 68年小林教会付属小林幼稚園卒園、宮崎県小林市立細野小学校入学後、福島県西白河郡西郷村、福島県白河市、埼玉県狭山市へと小学校時代は3度転校 農林省牧場勤務の父親の転勤に伴って各地の牧場を転々とし、山々と牛・羊・馬に囲まれて育つ ■ 77年埼玉県狭山市立西中学校卒業 ■ 80年埼玉県立所沢高校卒業 ■ 82年東洋英和女学院短期大学保育科卒業 ■ 96年日本女子大学通信教育課程家政学部児童学科卒業 ■ 82年狭山ひかり幼稚園勤務 ■ 89年めぐみ幼稚園(大田区)勤務 ■ 2001年こひつじ幼稚園(大田区)勤務

■ 10年大田・生活者ネットワーク政策委員長
 ■ 11年大田区議会議員初当選 ■ 15年大田区議会議員2期目当選。
 地域産業委員会、交通臨海部活性化特別委員会、子ども文教委員会、羽田空港対策特別委員会、健康福祉委員会、防災安全対策特別委員会

●地域活動：MOMOの会(この本だいすきの会池上支部)、呑川の会、大田遺産の会、額町幼稚園非常勤講師、日本保育学会会員 ●趣味：絵本・昔話の研究と語り ●家族：夫 ●池上在住



<http://kitazawa.seikatsusha.me>

きたざわ潤子

検索



facebook



twitter

生活者ネット
3つのルール

1 議員報酬は市民の政治活動資金に
生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開します。

2 議員は交代制(ローテーション)
議員は最長でも3期12年で交代し、議員を職業化、特権化しません。

3 選挙はカンパとボランティアで
みんなで知恵や力を出し合い、選挙を行います。

カンパ振込先 郵便振替口座 00130-3-718897
大田・生活者ネットワーク

大田・生活者ネットワーク

大田・生活者ネットワークきたざわ潤子レポート NO.106
 発行：大田・生活者ネットワーク 発行責任者：きたざわ潤子
 連絡先：大田区蒲田 4-42-3 イースタンコーポ蒲田 302 号
 TEL.03-6424-7561 FAX.03-6424-7562
 mail: oota@seikatsusha.net http://oota.seikatsusha.me



ひとりじゃない
子育て・介護
支えあい分かちあう
地域共生社会へ

大田・生活者ネットワーク
区議会議員

きたざわ

KITAZAWA JUNKO

潤子

●大田・生活者ネットワーク
きたざわ潤子の活動を紹介します。



人口減少社会を目前に子ども家庭、障がい者・高齢者世帯の孤立化や施策の後退が深刻化しています。大田区でも、市民の暮らしに内在する問題や地域課題に応じた支援体制づくりが喫緊の課題となっています。命と暮らしが脅かされている今こそ、地域から地に足のついた生活重視の政策を打ち出し、自治体から国や都をリードしていくときです。

つながり支えあう共生社会を大田から！ きたざわ潤子は、一人ひとりの人権が尊重され、誰もがその人らしく暮らせる福祉優先のまち大田を実現するために、3期目に挑戦します。

きたざわ潤子の提案

つながり、支えあう地域共生社会を大田から！



あなたも大事、私も大事！人権を大切に
する社会

- 子どもの権利を守る (児童虐待をなくす)
- 多様性を活かした社会
- 平和憲法を守る



子ども・若者が希望
の持てる社会をつくる

- 誰をも一人にしない
- 子どもの居場所づくり
- 学ぶ権利を保障する
- 生活力を育む消費者教育を推進する



地域で支え合う共生
のまちづくり

- 誰もが安心して暮らせる住まいの確保 居住支援システムをつくる
- 在宅を支える医療と介護の連携

持続可能な循環型社会
まちづくり

- 災害リスクを減らす
- 次世代に伝える食育・環境学習の推進
- エネルギーの地産地消で原発ゼロ

● 羽田増便反対
大事なことは市民が
決める

- 市民自治のまちづくり
- 市民活動や市民事業を応援し、市民力を活かす
- 議会改革 市民の声を反映できる議会へ
- すべての施策をジェンダーの視点で見直す



GDP 世界第3位の日本ですが、女性活躍を掲げているにもかかわらず、男女間の格差を表すジェンダーギャップ・ランキングでは順位を下げ続けています(2012年101位、17年114位)。働く人の4割が非正規雇用(うち7割が女性)となり、共働き世帯が多数派となっているにもかかわらず、妻の家事・育児時間は1日約7時間、夫はわずか1時間です(18年男女共同参画白書)。この間、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、パート労働法、女性活躍推進法などが整備されてきましたが、女性だけでなく長時間労働を強いられる男性の働き方を変えなければ、女性の負担は増すばかりです。

生活者ネットワークは昨年、ジェンダー問題プロジェクトを立ち上げ、「子育て女性」「非正規単身女性」「高齢女性」をキーワードに、東京に暮らす女性たち100人に聞く調査を実施。子育て・介護の社会化、単身女性や高齢女性の生活支援とその充実が喫緊の課題となっていますが、福祉的視点だけでなく

女性労働を支える環境整備や、個人単位の賃金・税・社会保障制度の実現などの課題も再確認される調査となりました。

きたざわ潤子は、みんなが幸せになる「男女平等社会」を実現するために、分野別・縦割り行政を超えて「ジェンダー主流化」の必要性を訴えています。

みんなが幸せになる
「ジェンダー(男女)平等社会」を実現する！
女性が自立できる、個人単位の賃金・税・社会保障制度を



2018年4月に開設された東京シュール大田で、東京シュール理事長の奥地圭子さんからお話を聞く、きたざわ潤子



Information

みんなでつろう！子どもが輝くまち・大田
「子どもの笑顔を生かす社会の真ん中に」

基調講演：子ども食堂6年間の歩みと“だんだん”の活動から見たこと
講師：近藤博子さん(気まぐれ八百屋だんだん店主)

- 2019年2月17日(日) 14時～16時
- 大田区消費者生活センター・大集会室(2階) JR蒲田駅東口徒歩約6分
- 参加費：無料 *お問い合わせは、大田・生活者ネットワーク
TEL 03-6424-7561 / FAX 03-6424-7562 oota@seikatsusha.net